

2019年5月号 財務諸表論 つぶ問

4 問目

【問題】

1. 企業のフロー情報に関する財務諸表には主に損益計算書とキャッシュ・フロー計算書があるが、なぜキャッシュ・フロー計算書が必要とされるのかを説明しなさい（次の2.に関連する内容を除く）。
2. 損益計算書と比べてキャッシュ・フロー計算書の方が経営者の操作が行われにくいと言われることがある。そこで、どのような意味で操作が行われにくいのか説明しなさい。

*2.については本誌では触れておらず、会計基準等でも説明されていません。試験上は極めて応用的な内容であるため、ピンとこない方は1.の方だけ考えてみてください。

【解答】

1. 損益計算書において企業の経営成績を表すフロー情報が表されるが、そこで示される利益は発生主義会計によりキャッシュ・フローとは一致しない。そして、企業が将来にわたって利益を獲得するための投資等を行えるか、もしくは企業価値がどの程度あるのかに関連して投資家が現金創出能力を評価するには、企業の活動ごとのキャッシュ・フローに関する情報が必要になる。また、特に利益が出ているかどうかに関わらず、企業の倒産は資金繰りが滞り借入金等を支払えないことによって生じる。そのため、キャッシュの増減を表す財務諸表が必要である。
2. 損益計算書の収益や費用は、企業の会計方針や様々な見積りの影響を受ける。そのため、一定の範囲内ならば会計方針の選択もしくは意図的に偏った見積りによって企業の実態行動を伴わずに収益や費用を操作することが可能である。その一方で、キャッシュ・フローは事実として生じた現金及び現金同等物の増減である。そこで、損益計算書と比べると会計方針や見積りの影響を受けず、操作が行われにくいといえる。

【解説】

1. キャッシュ・フロー計算書の必要性を確認する問題です。キーワードは、企業の「現金創出能力」と「赤字倒産」（解答では利益が出ているかどうかに関わらず、企業の倒産は…と文章で説明）です。解答にあるように、企業の倒産は借入金や給料などを支払えず、事業を継続できないことによって生じます。そして、利益があっても、貸借対照表で資産超過の状態であっても、売掛金の回収遅れ、もしくは過剰な設備投資等によってキャッシュが足りずに倒産する企業もあります。そのため、赤字倒産の可能性を評価するためにキャッシュ・フロー計算書が必要です。また、赤字倒産だけではなく、そもそも企業がどれだけのキャッシュ・フローを生み出す能力があるのかについても、情報が必要です。そのため、「現金創出能力」も重要です。
2. たとえば、減価償却にあたって定額法と定率法のどちらを選択するか、耐用年数を何年に設定するかなどによって、利益の金額が異なります。他にも引当金の見積り、固定資産の減損会計での将来キャッシュ・フローの見積りなど、利益は様々な項目で経営者の判断の影響を受けます。たとえ会計監査を受けていたとしても、限度があるにせよある程度の範囲ならば操作が可能であるのが実態です。それに対して、キャッシュ・フロー計算書では、たとえば取引先との間で仕入代金や売上代金の決済を早める・遅らせるなどの操作ができないこともないですが、これには必ず実際の企業の行動（取引）が必要となります。そこで、企業の行動を伴わずに会計上の判断だけで操作可能かどうか、損益計算書とキャッシュ・フロー計算書では異なります。